

090286

ment whether they had
any objection to such a proposal
and I am glad to say that
I have just received an answer
saying that they have no
objection at all provided that
the other Powers who signed
the Washington Naval Treaty
Concur.

So far as I know, your
Ministry has taken no part
in this matter, but it may be
of interest to you to know that
His Majesty's Government wishes

not to stand in the way of
very natural desire of the
Japanese to possess the ship as
a memorial. Have you any
objection to my giving publicity
to this fact?

I wish that I had
received the telegram before
visiting you this afternoon but
I only found it on my return
home.

Yours sincerely
Christ

British Embassy, Tokyo.

690287



April 8. 1924.

Dear Baron Matsui,

Some time ago I heard that the U.S. Ambassador had been approached by a large number of influential Japanese who wished to preserve the Battle ship Mikasa, unarmed, to be used as a club in honour of admiral Togo.

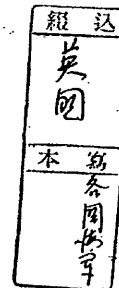
I thought it well to telegraph and ask my government whether they had any objection to such a proposal and I am glad to say that I have just received an answer saying that they have no objection at all provided that the other Powers who signed the Washington Naval Treaty concur.

So far as I know, your Ministry has taken no part in this matter, but it may be of interest to you to know that His Majesty's Government wishes not to stand in the way of the very natural desire of the Japanese to preserve the ship as a memorial. Have you any objection to my giving publicity to this fact?

I wish that I had received the telegram before visiting you this afternoon but I only found it on my return home.

Yours sincerely,

Signed. C. Eliot.



三笠艦保存に付英政府の要請

2-1 2 1 2

0287

le 5 Mars 1924 090288

AMBASCIATA D'ITALIA
TOKIO

3
2
1

Monsieur le Ministre,
En conformité des instructions
que je vous ai reçues, je me fais
un plaisir de vous informer que le
Gouvernement Royal n'a pas
d'objection à ce que la coque du
cuirasse "MiRaga" soit présentée
comme Musée National, à
condition naturellement que
les autres Etats signataires de la
Convention de Washington
consentent également.

2-1212

0263

G90289

Je saisis l'occasion de vous
remercier, pour les nouvelles,
les assurances de ma haute
considération et de mes
sentiments les meilleurs.

C. de Mackay

2-1212

0254

090290

2
4
3

何大使
國名
水陸軍

文書課長

文書課
長
印

公
信
案

大正十三年五月九日

接受

文書課發送

大正十三年五月九日 發送済

淨書 (野口)

正原稿

(淨書)

主 管

米局長

主任

第二課

(起草大正十三年五月八日)

普通第一二二七

大正十三年五月十一日 附

附屬書 通

受 借 人 名

海軍次官宛

發 信 人 名

松平次友

作 名

軍艦三笠、船体ヲ玉立
立物館トスル件

縫 込 名

海軍

武装解除後、軍艦三笠、船体ヲ玉立

立物館ニ改造スル件ニ関シ在本邦

伊予大使ヲ本邦政府ニ意向申出有之

公 信 案

外 務 省

(乙 號 用 紙)

伊予大使宛
手紙也

伊予大使事務局長宛
手紙也

外 務 省

2-1212

0255

090291

伊海相、三笠保
存、三、三、三、三

門	5
類	2
項	9
目	1

門	2
類	4
項	3
目	

6746

(暗) 羅馬表
本有署

大正三年五月 廿六日 四、三〇
廿七日 〇、〇

相井外務大臣

落合大使

第一二九號

伊國海軍大臣社交界ニ於ケル本使トノ會談ニ於テ近頃
日本ニシテ紀念ノ為軍艦三隻ヲ保存セシトノ希望アリ
由ナカ右ノ兵力増加ニ關係ナキコトニ付自ラトシテハ
之ニ就テ何事異存ナキト見テ通シテ四五キタリ
同誌セリ

送	込
軍	判
存	留
後	

華府會議ニ付
以條約變更
別冊軍艦三隻保存條件
印

090292

111
3
號

海軍一四〇〇
川村
海軍一四〇〇
海軍一四〇〇

大正十三年五月二十日 國民新報 切抜

三笠保存
本館も保存な
い。元來、
三笠の保存
は、大正十
三年五月
二十日、
國民新報
に掲載さ
れた。其
の時は、
三笠の保
存は、大
正十三年
五月二十
日、國民
新報に載
せられた
が、其の
時は、三
笠の保存
は、大正
十三年五
月二十日
、國民新
報に載せ
られた。

東京ニテ
米佛二國

五月二十日川村中將が海軍長官に就任したるに付三笠保存の事、其の官界に於ては、従前、海軍に於ては、三笠の保存は、大正十三年五月二十日、國民新報に掲載されたが、其の時は、三笠の保存は、大正十三年五月二十日、國民新報に掲載された。

海軍 後送半葉十三行野紙

2-1212

0267

陳情書

可
字
記

2-1212

0258

悔やむべきの
女にのり
と申す



090292

陳情書

三重縣度會郡大湊町長山中雀十謹ンデ外務
大臣男爵幣原喜重郎閣下ニ陳情仕候
陳情ノ要旨ハ日本海大海戦ニ於ケル殊勳
ル旗艦トシテ光輝アル歴史の記念物トシテ
永遠ニ忘ル、能ハザル軍艦三笠ガ華府會議
ノ決議ニ依リ遠カラズ解體又ハ破壊サレシ
トスルニ當リ特ニ其ノ艦體ヲ保存シテ之ヲ
伊勢神宮ニ獻納シ神宮ト緣故深キ大湊港ニ
繫留シテ以テ世界平和ノ記念タル意義ヲ完
カラシメ天佑神助ヲ奉謝スルノ道ヲ明ニス

ルト共ニ深遠ニシテ崇高ナル國家ノ歴史ヲ
尊重シテ國民精神ノ善導ニ資スルハ最モ急
要ノ舉ト信ズルガ為茲ニ情ヲ具シテ閣下ノ
明断ヲ仰ギ特ニ此ノ願意ヲ採納セラレシ事
ヲ稟請スルモノニ候雀十等曩キニ軍艦三笠
ノ悲哀ナル運命ニ逢ハントスルヲ聞クヤ恐
惶嗟嘆措ク能ハズ是非トモ國家ノ為メ又國
民ノ為メニコノ貴重ナル歴史の記念物ヲ保
存スベキ必要アルヲ確信シ反覆熟慮ノ末之
ヲ町會ニ諮リ満場一致ノ決議ヲ以テ本年四
月十五日附ノ請願書ヲ草シ時ノ内閣總理大
臣清浦子爵閣下ニ提出致シ候實際想ヒ起セ



巴明治三十八年、秋日本海大戦捷、後之ヲ
 闕下ニ奏シ奉ルノ前、先ヅ伊勢神宮ニ奉告セ
 ニガ爲聯合艦隊が堂々タル凱旋ノ雄姿ヲ伊
 勢灣頭ニ現ハシタル當時司令長官旗ヲ高ク
 其檣頭ニ翻ヘシテ燦然タル榮譽ヲ示シタル
 旗艦三笠ヲ親シク神境ニ觀迎シタリシ崔十
 等ハ感慨實ニ無量ニシテ二十年後、今日空
 シク其ノ名ヲ殘シテ艦體が海底ニ葬リ去ラ
 レントスル悲惨ナル末路ヲ默視スルニ忍ビ
 ザルモノアリシガ爲ニ候
 而シテ請願書提出ノ後帝都ニ於ケル有力家
 側ニ於テ三笠記念保存會ノ組織セラル、ソ

聞キ且ツ各方面ノ識者間ニ保存論者并ニ其
 ノ共鳴者ノ續出ヲ見テ三笠ヲ救ヘノ叫ビガ
 今ヤ輿論化セントスルヲ認メ得ルマデニ高
 調セラル、ヲ知ルニ及ビ崔十等ハ更ニ欣躍
 ノ念ヲ禁ズル能ハズ一層ノ熱心ヲ加ヘテ茲
 ニ閣下ノ威嚴ヲ冒シ請願ノ趣旨ヲ敷衍シテ
 敢テ情ヲ陳ズル次第ニ候
 日本海々戦ノ旗艦トシテ軍艦三笠ノ光輝ア
 ル名譽ヲ有セル事ハ今更歟説ヲ要セザル處
 ニシテ國家的ノ見地ヨリシテモ社會的ノ意
 義ヨリシテモ又國民的熱情ノ上ニ徴シテモ
 乾坤一擲ノ大海戦ニ絶大ノ勳功ヲ擧ゲタル



此歴史的記念物ヲ汲却スルノ情ニ忍ビザル
 國民ノ哀情ヲ御賢察下サレ願ハクバ此偉大
 ナル記念物ヲ永遠ニ保存シ國民精神作興上
 尊重スベギ歴史ヲシテ世人ニ忘ル、ナカラ
 シメントスルノ舉ニ一顧ヲ賜ハラシコトヲ
 聞クガ如クンバ英國ニ於テハ提督ネルソ
 ノ旗艦ヅエトトリカ百六十年後ノ今日マ
 デ保存サレ又米國及佛國等ニ於テモ同様ノ
 意義ニ於テ種々ノ保存計畫アリトイエリ外
 國ニ於テ已ニ然リ殊ニ万邦無比ナル崇高ノ
 歴史ヲ有セル吾ガ帝國ニ於テ三笠保存ヲ實
 行シ能ハザル理由ハ絶對ニ之レ無キ筈ト信

ジ候但ソノ記念保存ノ方法様式等ニヨリテ
 ハ條約ノ真精神ニ抵觸スル如キ虞ナキヲ保
 シ難ケレドモ而カモ之ヲ國家ノ宗廟タル伊
 勢神宮ニ献納スル事トナルニ於テハ其ノ名
 分極メテ明ラカニシテ意義洵ニ正シク真ニ
 歴史的記念物ノ保存法トシテ内外トモニ一
 點ノ批難無キハ勿論何等誤解等ヲ惹クノ憂
 ナキ事ハ何人モ首肯ヲ吝マザル處ナルベク
 候殊ニ日本海々戦史ヲ按ズルニ聯合艦隊ノ
 東郷司令長官ガ其ノ大戦捷ノ詳報ヲ公表ス
 ルニ當リ其ノ冒頭先ヅ天佑ト神助トニ依リ
 云々ト記シ又其ノ末文ニハ歴代神靈ノ加護

ニ依リ云々ト述ベラレタルガ更ニ當時
 先帝陛下ガ畏クモ東郷司令長官ニ下シ賜ヒ
 シ勅語ヲ拜スルニ先ヅ其ノ偉功ヲ賞シ賜ヘ
 ル御詞アリテ後朕ハ汝等ノ忠烈ニヨリ祖宗
 ノ神靈ニ對フルヲ得ルヲ懌ブト宣バセ玉フ
 即チ君民同族神人一致ノ吾ガ國體トシテ至
 尊ノ聖慮提督ノ信念共ニ俱ニ神國ノ神國タ
 ル所以ト敬神崇祖ノ大道ヲ明ラカニ明示セ
 ラレタルモノト申スバク熟ラ思ヒシコトニ
 致セバ其ノ大海戰ニ偉功ヲ有スル軍艦三笠
 ヲ保存シテ之ヲ伊勢神宮ニ獻納スル事ハ乃
 チ宏大ナル神恩ヲ奉謝スル意義ヲ完フスベ

ク畏レナガラ神慮ニモカナハセラル可シト
 恐察シ奉ル次第ニ候然シテ之ヲ獻納スル上
 ハ神宮ニ緣故深キ我が大湊埠頭ニ繫留シ國
 寶トシテ永ク之ヲ保存シテ其ノ歴史的光輝
 ヲ示シ又年々神宮ニ參拜シ來ル幾十万人ノ學
 生ヲ始メ汎ク一般ニ觀覽セシメ以テ愛國の
 精神ノ修養ニ資スル事トセバ其効果頗ル
 多大ナラント信ジ候抑モ大湊ノ地タル宮川
 ノ河口ニ位シ太古以來諸國ノ神宮御料地ヨ
 リ上ル所ノ神稅ハ海路必ズ此地ニ輸送サレ
 然ル後兩宮ニ獻納セラレシモノナレバ即チ
 神宮ノ門戸トシテ其ノ尊嚴ヲ増進スルニ與



090297

リテカアリシ特別ノ關係ヲ有ス又南北朝ニ
 至リ北島ノ一族が伊勢ノ勤王家ト相謀リ神
 官ヲ奉ジテ吉野朝廷ノ東藩タルニ當リ南朝
 水師ノ根據地トシテ軍事上最モ主要ノ任務
 ヲ負ヒタリ又大湊が我が國ノ港灣トシテ將
 タ造船地トシテ最モ古キ歴史ヲ有スル事ハ
 顯著ナル事實ニシテ其ノ由緒ノ上ヨリ又其
 ノ位地ノ上ヨリ三笠ノ保存繫留ニ最モ適當
 ナル事ヲ御墮察相成度候 以上情負シテ
 稟請仕候ニ付願クバ閣下ノ御明断ヲ以テ
 三笠艦ヲ我が神宮ニ獻納セラレ之ヲ大湊埠
 頭ニ繫留シテ永久保存ノ實ヲ擧ゲラレン事

ヲ願仕候也

大正十三年九月三日

三重縣度會郡大湊町長山中崔十



外務大臣男爵幣原喜重郎殿

門
2
1
6
3
院

大臣
公
春

090298

大正十三年十一月十一日

江木内閣書記官長

幣原外務大臣殿

別紙請願書寫法参考送付
附仕候

下付海軍省より送附。承認し本ノ旨に
自海軍省に送付打合し清
改二



受

専

甲
制
官
施

内
閣

2-1212

0274

請願書

我帝國ノ光榮アル史上ニ特筆大書スベキ明治三十
 七八年ノ日露戰役ニ際シ聯合艦隊ノ旗艦トシテ
 赫々タル偉勳ヲ奏シ不滅ノ名ヲ後世ニ殘シ候戰
 艦三笠ガ量ニ華府海軍條約ノ規定ニ基キ廢
 棄セラルベキノ運命ニ達着候事ハ世界ノ平和
 ヲ目的トスル同條約ノ實施上誠ニ止ムヲ得ザル處
 ニ有之候得共斯ノ如キ光輝アル史的記念艦ヲ全
 然其形體サヘモ留メザル程度ニ破壞シ去ルハ吾國
 民トシテ情ニ於テ忍ビザルモノ有之候ノミナラス若シ

内閣

之ヲ華府海軍條約ノ精神ニ背反セザル範圍内ニ
 於テ何等カノ形式ノ下ニ國民的記念物トシテ保存ス
 ル事ヲ得バ國民教育ノ上ニ裨益スル處歎ナカラ
 ズト信ジ申候ニ付先般末不肖等ハ三笠保存會ナ
 ルモノヲ組織シ華府海軍條約ノ調印國タル英米
 佛伊諸國ノ大使ニ對シ同會ノ名ヲ以テ國民ノ微
 衷ヲ披瀝シ事實上戰關ノ用ニ供スル能ハザル程
 度ノ廢棄ユ事ヲ同艦ニ加ヘ以テ單ニ記念物トシテ
 永ク之ヲ後世ニ傳ヘタキ趣ヲ陳述シ之ニ對スル各
 關係本國政府ノ同意ヲ得ル様斡旋有之度旨依

牛込野七(十行全)

090300

賴仕候處幸ニシテ各大使何レモ不肖等ノ意ノアル所
ヲ諒トシ早速夫々本國政府ト協議ノ上非公式ノ承認
ヲ興ヘラレ申候就テハ帝國政府ニ於テモ不肖等ノ
微表ヲ諒トセラレ此際公式ニ關係各國政府ト御交
渉ノ上同繼ヲ記念物トシテ保存スルノ手帳ヲ採ラレ
ン事切望ニ堪ヘズ候
右謹テ及請願候也

大正十三年十一月十日

三笠保存會々長 辰谷芳郎

内閣總理大臣子爵加藤高明殿

内閣

半紙附(十行全)

2-1212

0275

2
5

090301

大臣 官 亞細亞 通商 條約 情報 人事 會計 文書 平和條約

收

電信課長

電信案

暗號 發電大正十三年十一月十九日 午前九時五分 午後 送電番號 八五二八 奉天經由 長春經由

主 管 歐米局 任 主 (起草大正十三年十一月十九日)

件名 軍艦三笠保存之件

名 込 經 軍制少佐 日住電集

受信 在米 人名 吉田代理大使宛

發信 人名 幣原大臣

第四八五號

旧軍艦三笠ヲ海軍條約ノ精神ニ反セザル範圍ニテ國民的紀念物トシテ永久保存方ニ關シ一部有志者於テハ曩ニ此公電信案 外務省

式ニ關係政府ニ照會シタル所何レモ異存ナキ旨回答アリ
タル趣ニテ今般古有志ヨリ請願ノ次第アリ其ノ同艦ノ客
年橫濱賀ニテ震災ニ會ヒ艦底ノ損害増大ニ沈没ノ虞
アリシヲ以テ港外淺所ニ移シ海軍條約ニ基キ第一期作業
即チ就開カノ撤去ヲ完了シタルモ未だ侵水ト苦シ海産
ニ沈産シ船側ノ半ハ水中ニ没シ居ル現状ナリ帝國政
府ニ於テハ關係政府全部異議ナキ限り國民ノ要求ヲ

2-1212

0277

090302

(成號用紙)

満是セシムコト安富ナルヲ認メ用紙ノ裁量ヲ資金ノ解除

シタン上歴史的記念物トシテ保存ニシテ意向ニテ在在郵

英米佛伊大使ニ各本國政府ノ同意取付方正式ニ

申入ヲ為シ申ケリ 古御舎迄 英佛伊ニ轉

電アリタシ

外務省

2-1212

0278

690303

譯文添附

文書課長 長檢印

大正十三年七月廿五日接受

歐米局長

大正十三年十一月廿五日起事

送 軍制 宛 本 務

淨書校正原

歐米局長

普通合第一號

幣原大臣

大正十三年七月廿五日發送濟

在本邦

英、米、佛、伊各大使宛

軍艦三笠保存ニ關スル件

以書翰致啓上候陳者帝國臣民一部有志者於華府海軍條約ニ
廢棄セラルヘキ帝國舊軍艦三笠ヲ海軍條約ノ精神ニ背反セサル範圍
ニ於テ國民的記念物トシテ永久ニ保存シテ之ヲ

軍務局長

外務省

(已號用紙)

公式ニ關係帝國政府ノ意向ヲ尋ネタル所貴國政府ヲ初メ關係國全部右
ニ異存ナキ旨回答アリタル趣ニテ今般右有志ヨリ帝國政府ニ對シ請
願ノ次第有之候三笠艦ハ客年九月横須賀内港在泊中震災ニ會シ豫テ
被レル艦底ノ損害増大シ沈没ノ虞アリシヲ以テ不取敢港外淺所ニ碇
置シ海軍條約ニ基ク第一期作業即チ戰鬪力ノ撤去ヲ完了シタルモ爾
來長水ト共ニ艦体海底ニ沈座シ目下舷側ノ半ハ水中ニ没入シ居ル現
狀ニ有之候處帝國政府ニ於テハ貴國政府ヲ初メ關係國政府全部ニ於
テ異義無キ限リ前記國民ノ要望ニ満足ヲ與フルコト安當ナルヲ認メ
將來ニ於テ戰鬪力ノ撤去ノ上歴史的記念物トシテ保存致シタキ
意向ニ有之候ニ就テハ右ニ對スル貴國政府ノ御意見何分ノ義公式ニ
承知致度此段照會申進旁本大臣ハ茲ニ閣下ニ圖テ重テ敬意ヲ表シ候敬具

外務省

2-1212

0279

090304

海軍條約ニ依ル軍艦廢棄ノ期間モ滿了迄ニ餘日少ナキニ付至
急何分ノ御回答相煩度候
得御奉存

(已號用紙)

外務省

2-1212

0280

690305

海軍

覺書

舊軍艦三笠ノ處分ニ關スル件

海軍々備制限ニ關スル條約ニ依ル廢棄艦中舊軍艦三笠ハ日露戰役當時聯合艦隊司令長官旗艦トシテ偉大ナル勳功ヲ樹テ赫々タル戰歴ヲ有スル世界的名艦ナルヲ以テ海軍ニ於テハ條約ノ範圍内ニ於テ何等カノ形式ニ依リ同艦ヲ記念スルニ足ルモノヲ留メ以テ國民殊ニ海軍々人ノ精神教育ニ資スル方針ナリシ處同艦ハ客年九月横須賀内港在泊中震災ニ會シ豫テ被レル艦底ノ損害ヲ増大シ沈没ノ虞アリシヲ以テ不取敢港外白濱沖淺水部ニ設置シ條約ニ基ク第一期作業（戰闘力ノ撤去）ヲ完了セル處爾來侵水ト共ニ艦ハ海底ニ沈座シ目下撤去ノ半水中ニ没シ今後之ヲ浮揚シ制規ノ第二期廢棄作業ヲ實施スル爲ニハ多大ノ經費ヲ要スル狀態ニ在リ

海軍

抑々三笠ノ保存ニ關シテハ全國官民各方面ニ亘リテ熱烈ナル希望アルカ如ク海軍省ハ屢々此種請願ニ接セリ殊ニ客年六月以來各新聞ニ於テ之ヲ高唱スルモノ益々多キヲ加ヘ遂ニ本年三月ニ至リ總須賀侯爵以下民間有志相謀リテ三笠保存會ヲ組織シ國民的記念品トシテ同艦ヲ保存スルノ趣旨ヲ國民ニ宣傳スルト共ニ米國大使外各關係國大使ヲ應訪シテ三笠保存ノ趣旨ヲ述ヘ懇談ヲ遂ケ最近ニ至リ英米佛伊政府何レモ國民的記念トシテ三笠ヲ保有スルコトニ異議ナキ旨回答シ奉レル趣旨保存會發起人ノ陳情ニ接セリ

凡ソ國際條約ヲ誠實ニ實行スルハ帝國ノ國是ナルモ單ニ三笠ヲ記念トシテ保存シ將來全然戰國用ニ供シ得サル様處理スルニ於テハ必スシモ華府條約ノ精神ニ違反セサルノミナラス三笠保存ニ關シ民間有志ノ運動ニ依リ既ニ列國政府ノ内諾ヲ得タル現状ニ於テハ對内對外

海軍

關係主之尊重スルコト妥善ト雖モテハルニ依リ國民的記念物トシ
 ナニテ保存スルコトトシ條約上ノ關係ニ於テ將來ニ紛議ノ因ヲ貽
 シザル爲メ關係國政府ノ諒解ヲ求メルコトヲ致度

他國ノ海軍活動ノ制限ヲ行フニ當リハ先づ各國ノ海軍活動ノ自由
 保持ヲ以テスルコトヲ必要ナル事ヲ認ムルガ如ク此ノ點ニ於テハ
 自國ノ利益トシテ他國ノ利益トシテ亦同様に認ムル必要アリ
 而シテ各國ノ海軍活動ノ制限ヲ行フニ當リハ先づ各國ノ海軍活動ノ自由
 保持ヲ以テスルコトヲ必要ナル事ヲ認ムルガ如ク此ノ點ニ於テハ
 自國ノ利益トシテ他國ノ利益トシテ亦同様に認ムル必要アリ

而シテ各國ノ海軍活動ノ制限ヲ行フニ當リハ先づ各國ノ海軍活動ノ自由
 保持ヲ以テスルコトヲ必要ナル事ヲ認ムルガ如ク此ノ點ニ於テハ
 自國ノ利益トシテ他國ノ利益トシテ亦同様に認ムル必要アリ

而シテ各國ノ海軍活動ノ制限ヲ行フニ當リハ先づ各國ノ海軍活動ノ自由
 保持ヲ以テスルコトヲ必要ナル事ヲ認ムルガ如ク此ノ點ニ於テハ
 自國ノ利益トシテ他國ノ利益トシテ亦同様に認ムル必要アリ

2-1 2 1 2

0282

voient aucune objection.

En ce qui concerne le Mikasa, le tremblement de terre du 1^{er} septembre 1923, qui a eu lieu pendant son mouillage dans la rade intérieure de Yokosuka, a aggravé les dommages qu'il avait reçus antérieurement au fond de sa coque; et comme il y avait à craindre une submersion, on l'a ancré à un endroit peu profond en dehors de la rade et a accompli les opérations de la 1^{ère} période fixée par le susdit Traité pour le désarmement des navires de guerre. Malgré cela, l'eau est entrée dans l'intérieur de sa coque, et celle-ci a échoué au fond de la mer, de sorte qu'à présent la moitié de ses flancs se trouve sous l'eau.

Le Gouvernement Impérial, en considérant comme convenable de donner satisfaction au susdit désir du peuple, tant que le Gouvernement d'Italie et ceux de toutes les autres Puissances n'y voient

090308

pas d'objection, est désireux de conserver ledit vaisseau comme souvenir historique, après l'avoir mis, dorénavant, complètement hors d'état de servir pour le combat.

Je Vous serai donc très obligé de vouloir bien me faire connaître officiellement l'avis de votre Gouvernement à ce sujet, et cela aussi promptement que possible, étant donné que la fin du délai pour le désarmement des navires de guerre en vertu du Traité susmentionné est très proche.

Veillez agréer, Monsieur l'Ambassadeur, les assurances réitérées de ma très haute considération.

Signé: Baron Kijuro Shidehara,
Ministre des Affaires Etrangères.

Son Excellence

Monsieur Nobile Giacomo de Martino,
Ambassadeur Extraordinaire et Plénipotentiaire
d'Italie.

翻譯課長

690307

Traduction. 主

N° 90. 22 任



Tokio, le 11 novembre 1924.

Monsieur l'Ambassadeur,

Un groupe des sujets japonais vient d'adresser au Gouvernement Impérial une sollicitation en vue de conserver comme éternel souvenir national, pour autant qu'il ne contrevient pas à l'esprit du Traité de Washington concernant la limitation de l'armement naval, l'ancien vaisseau de guerre "Mikasa", en l'informant qu'ayant demandé officieusement l'avis des Gouvernements des Puissances intéressées, il a obtenu la réponse du Gouvernement d'Italie ainsi que de tous les autres Pays, disant qu'ils n'y



2-1 2 1 2

0284

690306

bottom having been aggravated owing to the disaster, she threatened to sink. In order to avoid this eventuality, she was taken to, and left at, a shallow place outside the harbour. At this place the first stage of scrapping operations under the Naval Treaty, viz., the work of rendering her incapable of warlike service, has been completed. Gradually making water, she now lies at the bottom of the sea with the lower half of her sides submerged.

Provided that no objection is raised by Your Excellency's Government and by all the other Governments concerned, the Japanese Government consider it desirable to meet the above-mentioned wishes of my countrymen, and intend to preserve the Makasa as a historical memento after placing her in such condition that in future she cannot by any means be put to combatant use. Accordingly I beg leave to request that Your Excellency will be so good as to furnish me officially with the opinion of your Government

on the matter. In view of the fact that not much time remains before the expiration of the period prescribed for scrapping operations under the Naval Treaty, I shall be greatly obliged if the reply of your Government can be communicated at their earliest convenience.

I avail, etc.

Signed: Baron Kijuro Shidehara,
Minister for Foreign Affairs.

American Embassy.

課
長

主
任

Tokio, November 26th, 1924.

Translation
No. 90.22

Monsieur l'Ambassadeur,

I have the honour to state that my Government have received a petition from certain Japanese who are anxious that the former Japanese warship Mikasa, to be scrapped under the Washington Naval Treaty, may be permanently preserved as a national memento in so far as is compatible with the spirit of that Treaty. Some time ago these Japanese informally ascertained the opinion of the Governments concerned with respect to their desire, and were assured by Your Excellency's Government and by all the other Governments that no objection would be raised to this proposal being carried into execution.

At the time of the Earthquake of September last year, the Mikasa was at anchor in the harbour of Yokosuka, and the damage which had previously been ^{brought} sustained to her



2-1 2 1 2

0286

suscit comme musée national.

Veuillez agréer, Monsieur le Ministre, les nouvelles assurances de ma plus haute considération

L' Ambassadeur d' Italie

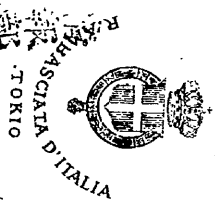
Carlo Mastigliani

090311

大 陸 海 軍 省

N. 847

門 番	2
類 別	4
項 目	3
號 数	



Tokio, le 30 Novembre 1924

Monsieur le Ministre:-

Je n' avais pas manqué d' informer mon Gouverne-
 ment du contenu de la Note que Votre Excellence a bien
 voulu m' adresser le 25 du mois courant, sous le numéro
 GO 22, au sujet de la conservation comme souvenir histo-
 rique de l' ancien et glorieux bateau de guerre "MIKASU".

Je me fais un plaisir de porter à Votre connais-
 sance, en conformité des instructions que je viens de rece-
 voir, que le Gouvernement Royal, en conformité de l' avis
 favorable qui avait été déjà exprimé par le Ministère
 talien de la Marine, consent à la conservation du bateau

A Son Excellence

Monsieur le Baron Kijuro SHIDOHARA

Ministre des Affaires Etrangères

T O K Y O

普通 郵便
 受第 177 號
 13.12.2

歐 洲 郵 票

三三三信局印

軍 制 策 施

G90310

République à ce propos.

J'ai l'honneur de répondre à Votre Excellence que
mon Gouvernement donne volontiers son assentiment au
Gouvernement Impérial./.

Veuillez agréer, Monsieur le Baron, les assurances
de ma très haute considération.



690309

Paris le 1er Décembre 1924

Embassade
 de la
 République Française
 au
 Japon

大 官 題

13.12.24

門	2
類	0
号	3
紙	

Monsieur le Baron,

Par sa lettre collective N°22 du 25 Novembre dernier, Votre Excellence voulait bien me rappeler que mon Gouvernement ainsi que tous ceux signataires du Traité Naval de Washington avaient officiellement consenti à ce que le navire de guerre Mikasa fût conservé comme relique nationale sur la demande d'un groupe de Japonais qui les avaient approchés directement à ce sujet.

Les travaux de la première période prévue par le dit Traité ayant été effectués avec le résultat d'enlever au Mikasa sa puissance combattive et ce navire se trouvant actuellement dans un état qui le rend presque inutilisable, Votre Excellence me fait savoir que le Gouvernement Impérial s'associe également au vœu populaire et me demande de lui communiquer d'urgence l'opinion du Gouvernement de la

Son Excellence
 le Baron Shidehara
 Ministère des Affaires Étrangères
 etc, etc, etc,
 Tokyo

0.3.24

普通
 受領 224 籍
 13.12.4

Monsieur le Ministre,

British Embassy,
 TOKYO.
 December 1, 1924.
 690312

No. 171.

In reply to Your Excellency's Note No. 22 identical of

the 25th ultimo regarding a proposal to preserve in perpetuity
 as a national memorial the old Japanese warship MIKASA, I have
 the honour to inform Your Excellency that His Majesty's Govern-
 ment will have no objection to this project provided that the
 other Signatory Powers of the Washington Naval Treaty are also
 prepared to concur.

I avail myself of this opportunity, Monsieur le
 Ministre, to renew to Your Excellency the assurance of my
 highest consideration.

H. M. Ambassador.

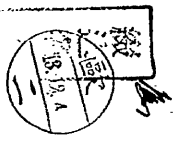
Cliff

His Excellency

Baron Kijuro Shidehara,
 etc. etc.

H. M. Minister for Foreign Affairs.

軍制実施



11
2
4
3

ジャパンタイムス社

東京市麹町区内幸町一丁目五番地

電話青山二六一七

振替貯金口座東京六四八四八

This Government has no objection to the proposed disposition of the MIKASA provided the Japanese Government should desire to dispose of the vessel in the manner suggested and provided, of course, that the other Powers signatory to the Naval Treaty also give their consent.

HUGHES.



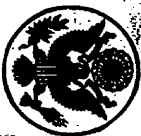
三笠保存会 斯波氏 (心石、タムラ、スズキ)
? たる士三三三 幸町五番地
三笠保存会 非ノ三笠保存会 閣下 米政府
に在り 貴社 幸町一丁目五番地 閣下 米政府
の大使 幸町一丁目五番地 閣下 米政府 幸町一丁目五番地
に在り 貴社 幸町一丁目五番地 閣下 米政府

東京市麹町区内幸町一丁目五番地
ジャパンタイムス社
振替貯金口座東京六四八四八

軍制
字施

2-1 2 1 2

0294



EMBASSY OF THE
UNITED STATES OF AMERICA

G90315

普通
43.12.27

東京
Tokyo, December 26, 1924.

No. 8

Excellency:

Adverting to your Excellency's note No. GO.22, of

歐米加
第 五 號

November 25, 1924, relative to the preservation as a national relic of the Japanese warship MIKASA, the contents of which I did not fail promptly to communicate to my Government, I have the honor to state that I am now in receipt of a telegraphic reply from the Department of State in the premises.

In accordance with this instruction, I beg leave to inform Your Excellency that my Government is happy to fall in with the desires of the Japanese Government as to the disposition of the MIKASA in the manner suggested, provided of course, that the other Governments concerned should likewise concur.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the assurances of my highest consideration.

His Excellency

Baron Shidehara,

His Imperial Majesty's

Minister for Foreign Affairs.

etc.,

etc.,

etc.

Wm. H. Brewster

送達名

大臣 090316

次官

事務次官

參與官

條約局長

海軍省

美、佛、米、伊、冬大

使、各關係國全

邦是、議、才、与、通、

知、及、才、

要録

文書課長 文書課印

大正十三年三月廿七日接受

文書課發送

大正十三年三月廿七日

淨書

正(原稿)

(淨書)

主 管 歐米局長

任 主 第二課

大正十三年三月廿七日附

附屬書一通

受信 人名

安保海軍次官

發信 人名

出頭次官

件名 軍艦三隻保存之要る件

級 軍制実施

本件、至本月八日附政二普通第二九三號、以申進

出、候、中、有、之、

存、于、片、別、紙、字、通、回、之、有、之、候、條、御、了、知、相、成、度、此、般

公 信 案

外 務 省

(乙) 號用紙 圓

申進候也

(別紙米國古使事稿第1号字一通添付)

外 務 省

2-1212

0295

譯文添附

大臣

次官

參事

參與官

條約局長

情報第二課

要翻譯

要再四

文書課長

文書課發送

主 管

任 主

號 大正十五年一月十五日附

附屬書

通

大正十五年一月十五日

淨書

正校(原稿)

(淨書)

(甲號用紙)

受信 英、米、佛各國大使各通
人名 伊太利代理大使

發信 幣原 大臣

件名 軍艦三隻保存之圖之件

名 込 綴 甲 船 隻 施

以書翰致陸上候陳者客年一月、日附第、號

英... 十二月一日附第... 貴翰... 華府海軍條約... 其... 軍艦三隻保存之圖條約... 精神... 其月及也

公 信 案

外 務 省

(乙號用紙)圖

此等範圍、於國民的記念物、永久保存、貴國政府

於御思、議者、御四系、預、致、以、本、件、之、要、之、

他、關係、國、政府、之、由、其、存、之、趣、之、本、報、

十月十日附第... 及米國大使... 伊國大使... 客年

以、以、夫、之、回、答、之、條、候、此、般、申、道、方、本、報、之、重、之、

下、伊太利代理大使、向、致、意、之、候、致、具、

外 務 省

2-1212

0297

Traduction.

090319

Tokio, le 5 janvier 1925.

No. G. 1

主任
長



Monsieur le Chargé d'Affaires,

J'ai eu l'honneur de recevoir votre lettre No. 847 en date du 30 novembre dernier par laquelle vous avez bien voulu me faire savoir que le Gouvernement Italien ne voit aucune objection à ce que l'ancien vaisseau de guerre "Mikasa", qui devait être démoli conformément au Traité Naval de Washington, soit conservé comme souvenir national, pour autant que cette mesure ne contreviendrait pas à l'esprit du susdit traité.

Les Gouvernements des autres Puissances intéressées ont déjà donné leur consentement par l'intermédiaire de leurs Ambassadeurs. (La France, par note du 1er décembre; la Grande-Bretagne, par note du même jour, et les Etats-Unis d'Amérique, par note du 26 décembre dernier).

En vous exprimant, au nom de mon Gouvernement, mes vifs sentiments de reconnaissance pour la bienveillance témoignée à cette occasion par le Gouvernement Royal, je saisis cette occasion de vous réitérer, Monsieur le Chargé d'Affaires, les assurances de ma considération très distinguée.

Signature du Ministre.

Handwritten signature: 伊藤 博文

海軍省 文書課 印

No. 90.1

主任

翻譯課長

Tokio, January 15th, 1925.

Monsieur l'Ambassadeur,

I have the honour to acknowledge the receipt of Your Excellency's Note No.8 of December 26th last, informing me that your Government have no objection to the permanent preservation, as a national memorial in so far as is compatible with the spirit of the Washington Naval Treaty, of the old Japanese warship Mikasa, to be scrapped under that Treaty.

I beg leave to state that all the other Governments concerned have likewise no objection to the proposal in question, their concurrence having been conveyed to me by the British Ambassador in his Note No.171 of December 1st last, by the French Ambassador in his Note No.105 of December 1st last and by the Italian Ambassador in his Note No.847 of November 30th last, respectively.

米大使

090318

In expressing on behalf of the Japanese Government my thanks for the courtesy and goodwill manifested by your Government in the matter, I avail myself, etc.

American Ambassador Bancroft.

Shidehara.